

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 24 年 4 月 12 日 (2012.4.12)

【公開番号】特開 2009-204612 (P2009-204612A)

【公開日】平成 21 年 9 月 10 日 (2009.9.10)

【年通号数】公開・登録公報 2009-036

【出願番号】特願 2009-43650 (P2009-43650)

【国際特許分類】

G 0 1 N 1/10 (2006.01)

G 0 1 N 33/48 (2006.01)

G 0 1 N 33/68 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 1/10 V

G 0 1 N 33/48 S

G 0 1 N 33/68

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 2 月 24 日 (2012.2.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

興味の対象である生物学的液体におけるタンパク質プロフィールをサンプリングする方法において、

前記生物学的液体のサンプルに対して有効量のキレート剤を加えることと、

ロイペプチンおよびベンザミジンからなる群より選択される、有効量の第 1 のプロテアーゼ阻害物質を加えることと、

フッ化スルホニルを基とし、セリンプロテアーゼを不活化するのに好適である、約 10 m M の濃度の第 2 のプロテアーゼ阻害物質を加えることと、

を含み、

前記サンプリングされたタンパク質プロフィールは、組み合わせられた前記有効量の前記第 1 のプロテアーゼ阻害物質および前記第 2 のプロテアーゼ阻害物質の組み合わせにより、付加体の形成によって実質的に改質されない、方法。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の方法において、

前記サンプリングされた生物学的液体の液体画分は、摂氏マイナス 70 度、摂氏ゼロ度未満、摂氏 2 ~ 4 度、および室温のうちの 1 つまたはそれ以上で貯蔵される、方法。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の方法において、

前記生物学的液体は、前記キレート剤を加え、続いて、前記第 1 のプロテアーゼ阻害物質および前記第 2 のプロテアーゼ阻害物質の一方または両方を加えることにより、サンプリングされる、方法。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の方法において、

前記生物学的液体は、血液または尿である、方法。

【請求項 5】

請求項 1 に記載の方法において、

前記第 2 のプロテアーゼ阻害物質は、A E B S Fである、方法。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の方法において、

A E B S F が、約 1 0 m M の濃度であり、かつベンザミジンが、サンプリングされた生物学的液体中約 2 0 m M の濃度にあるか、または、

A E B S F が、約 2 . 5 m M の濃度であり、かつロイペプチンが、約 2 . 5 m M の濃度にある、方法。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の方法において、

前記第 2 のプロテアーゼ阻害物質が、約 1 0 m M の濃度で存在する A E B S F であり、かつベンザミジンが、前記サンプリングされた生物学的液体中約 2 0 m M の濃度にあるか、または、

A E B S F が、約 2 . 5 m M の濃度であり、かつ前記第 2 のプロテアーゼ阻害物質としてのロイペプチンが、約 2 . 5 m M の濃度にある、方法。